



「速報」は大きな行事や出来事を皆で共有する為に発行します。

発行：令和6年1月
山城ネット(情宣チーム)

第4回 1月14日(日) 13:00～ 於：京都府聴言センター

聴覚障害者の豊かな暮らしを考える 山城研修会(暮らし研修会)

～ 防災における共助とは ～

講師：高塚 稔氏
(防災士/さかい聴覚障害者防災ネットワーク委員長)

★ 基調講演 ★ ワークショップ

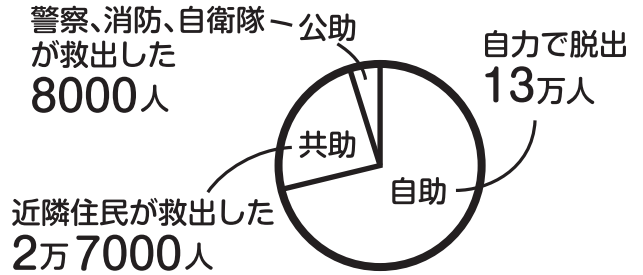


京通研との
共同企画

講師 高塚さんの大阪府堺市での長年の経験と知識をクイズとユーモアなどを交えて語って頂きました。

● 基調講演：公助より自助、共助が大事。

阪神淡路大震災で、瓦礫の下敷きになった人のうち、約16万5000人が無事だった。そのうち、



● グループワーク～地域の課題を考えよう～ 各グループの代表(今回はろう者を代表とした)が「防災対応力向上シート」、「防災チェックリスト」に記入。

各自が災害に対して準備できているか確認。

チェック項目

- ① 購入しましょう
- ② 準備しましょう
- ③ 確認しましょう
- ④ 点検しましたか
- ⑤ 連絡できますか
- ⑥ ペットがいますか
- ⑦ 避難できますか

各グループから、の意見

- ・地域ネットでも取り組むことが大事。
- ・地域に持ち帰り活用したい。
- ・資料は各自が記入したかった。実際に自分で資料を見て記入すると他人事ではなく考えられる。“何が足りないか”が分かり、今後に活かせる。 等々



※下の解説参照
●「防災リテラシーを養う」クイズ
時代と共に防災の知識も変わってきている。常に自身のリテラシーを更新する必要がある。

うちは大丈夫？ 違う！
いつ来るか分からない！



何度でも繰り返す。
それが命を救う。

● アンケート(抜粋)

阪神淡路大震災の後、しばらく避難グッズを寝室に備えていた。今は、、、高齢者はスマホを持っていない人が多い。FAXなどの繋がり方の確立も必要。地震の際にはブレーカーを落とす、個別避難計画の事など、知らない事が多かった。災害に関する常識は変化する。常に最新情報を！

他、多数のご意見を頂きました。

— 今さら聞けない？ 解説 —

京通研・・・京都手話通訳問題研究会山城班。当然、全通研は京通研の上部団体。名前は難しそうだけど、恐くな～い。気軽に関わって下さい。

防災リテラシー・・・災害に対する情報を適切に処理する能力。

講師、高塚さんがやっていた地名の手話“能登”もう一度見たい！

※親指は能登半島の形。他4指の曲げ具合は人それぞれ様です。

